

## 論文審査の結果の要旨

氏名 前田 真砂美

「北京はとても寒い」「北京の方がよほど暖かい」のように、事物の属性について「程度」を述べるという行為は、明に暗に他者との比較を前提とする。本論文は、中国語の「程度副詞」の中で、とりわけ使用頻度の高い三つの副詞、“还”[なお;まだ]、“更”[さらに;よほど]、“比较”[比較的]を取り上げ、それらの意味機能を構文論および語用論の観点から特徴づけ、中国語における「比較」表現と「程度」表現という不可分な言語行為の形式化および構造化の特質を明らかにしようとするものである。

まず、序章において考察の目的と背景を提示し、次に、第一章において“还”を取り上げる。“还”は、「もとに帰る;戻る」を意味する動詞“还(還)”を出自とし、文法化を経て副詞的機能を獲得したものと考えられ、従来は「多義的な副詞」として扱われてきた。本論文は、この形式が、動詞の“还(還)”に由来して、〈原状回帰〉の意味——すなわち〈事態の傾きと事実とを照合した結果、照合の軌跡が事態の傾きに反して原状域へと回帰する〉という意味——を表すものであることを論証し、従来記述されてきた多義性はいずれも〈原状回帰〉という核心的意味の構文的もしくは語用論的発現であることを明らかにする。第二章では、「さらに」という意味を表すと記述されてきた“更”について、従来の記述の不備を指摘し、この形式が、「変更する」を意味する動詞“更”に由来して、〈話し手または聞き手の)認識の変更〉を迫るための形式であることを明らかにする。すなわち、“更”は、当該の属性の程度に対する話し手または聞き手の認識が事実と乖離することを表す形式であり、「さらに」という意味も、その乖離が語用論的に齎す一つの「含意」にすぎないという事実を、的確な実例の分析を通して論証する。第三章では“比较”を取り上げ、この形式が、動詞としての“比较”[比較する]からの文法化の度合いが浅く、〈他と比べてみて;どちらかと言えば〉という意味を表す副詞成分であること、すなわち、問題の対象が〈敢えて他と比べてみて、どちらかと言うなら、斯くなる属性を有すると言える程度のものである〉という意味を表す形式であることを論証する。第四章では、三つの副詞と種々の比較構文の共起制限に関わる差異について、語用論的な観点から、合理的な解釈を試みる。終章で議論の全体を整理し、今後の課題を提示する。

第四章の議論にやや説得力を欠くものの、実例を丹念に読み込み、それぞれの程度副詞が担う比較の意味の内実を、出自となる動詞の意味と関連づけつつ、独創的な視点から、先行研究を凌ぐ十分な説得力を以って明らかにした本論文の成果は、中国語学における副詞研究に大きく貢献するものとして高く評価される。

よって、本審査委員会は本論文が博士(文学)の学位に値するものとの結論に達した。